

《担当者名》教授 / 飯塚 健治

【概要】

病態の把握と治療には、有効な検査手法の開発と、その疾病の発現に影響を及ぼす諸因子の解析などの科学的かつ分析的な研究が必要である。こうした研究の最新の成果や知識を講義を通じて修得する。

【学修目標】

日常的に良く目にする主要な症候や症例について、その背景となる疾患や診断並びに治療について概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	病態解析学総論	病態解析の基礎について概説できる。	飯塚 健治
2	症候・症例 1	代表的な呼吸器系疾患について説明できる。	飯塚 健治
3	症候・症例 1	関連する症候や症例について討議する。	飯塚 健治
4	症候・症例 2	代表的な脳心循環器系疾患について説明できる。	飯塚 健治
5	症候・症例 2	関連する症候や症例について討議する。	飯塚 健治
6	症候・症例 3	代表的な脳心循環器系疾患について説明できる。	飯塚 健治
7	症候・症例 3	関連する症候や症例について討議する。	飯塚 健治
8	症候・症例 4	代表的な脳心循環器系疾患について説明できる。	飯塚 健治
9	症候・症例 4	関連する症候や症例について討議する。	飯塚 健治
10	症候・症例 5	代表的な末梢循環器系疾患について説明できる。	飯塚 健治
11	症候・症例 5	関連する症候や症例について討議する。	飯塚 健治
12	症候・症例 6	代表的な代謝性疾患について説明できる。	飯塚 健治
13	症候・症例 6	関連する症候や症例について討議する。	飯塚 健治
14	最近の話題	近年話題になっている医療関連事象について概説できる。	飯塚 健治
15	まとめ	これまでの症候や症例についてまとめる。	飯塚 健治

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

質疑応答や発表内容、並びに授業態度（70%）と大学院特別講義やセミナーの報告書並びにレポート（30%）により評価する。

【教科書】

なし（必要に応じて資料を配付する）

【参考書】

なし

【学修の準備】

該当する各症候・症例について、関連する情報をあらかじめ収集しておくこと。